

学習進路通信

2024年度 第6号
3月21日発行
文責／学習進路部



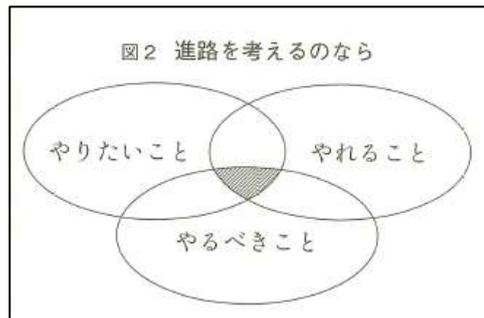
進路選択の三つの軸

平和教育プログラムでお世話になった学習院女子大学の伊藤由紀子先生とオンラインで打ち合わせをした時に、日本の高校生とルワンダの高校生の進路選びの違いについてのお話を伺う機会がありました。

伊藤先生によると、日本の高校生が自分の進路を決める際に「自分が何をやりたいか」を軸に選ぶケースが多いのに対し、ルワンダの高校生は「自分たちの国や社会で何が必要か」を軸に選ぶケースが多いということでした。実際、2月のオンライン授業に参加してくれたルワンダの女子大生の方が大学を選んだ理由は「大学でビジネスを勉強し、社長になって、仕事のない人に仕事を与えたい」というものでした。授業後に山脇生に実施したアンケートを見ると、この言葉が印象に残った生徒は多かったようです。

法政大学でキャリアデザイン学部の教授を長く務めたのち、学部長、教育開発支援機構長を経て現在は法政大学教職課程センター長を務めていらっしゃる児美川孝一郎先生の著書に『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書、2013年）という本があります。

この著書の中で、児美川先生は「やりたいこと」一辺倒の日本のキャリア教育に対して疑問を投げかけ、「若い人たちには日頃から『やりたいこと』だけに注目するのではなく、自分の『やれること』、現在の社会のなかで『やるべきこと』を意識してほしい」（同書86頁）と述べています。この場合の「やるべき」こととは、社会全体で解決すべき課題のある分野を指します。



私たちが生きる社会はさまざまな「仕事」によって成り立っています。中高生のみなさんは卒業後、大学への進学等を経て、さまざまな「仕事」に就きます。「仕事」はみなさんにとって自己実現の場であると同時に、社会を円滑に動かすための役割をそれぞれが担う場でもあります。私たちは「仕事」を通してその役割を果たすことで、対価として報酬を得、生活の基盤を築き、社会の中での自分の居場所を確保することができます。結果的にそれが「自己実現」にも繋がります。

進路選択では、「やりたいこと」「やれること」「やるべきこと」の3つの軸を持ち、自分が「やりたいこと」を探究すると同時に、社会の中で「やるべきこと」の中で自分が「やれること（＝役に立てること）」は何かを考えるというアプローチも試みるとよいでしょう。そうすることで、みなさんの「目標」は「志」になります。

2023年度はみなさんにとって色々なことにチャレンジする1年だったと思います。山脇学園も様々な新しい取り組みにチャレンジする1年でした。2024年度もさらなる飛躍を目指してみなさんと一緒に歩んでいきます。4月から新しいスタートをともに踏み出しましょう。

学習・進路支援の取り組み報告

中1

■2月20日スピーチコンテスト本選開催

2学期の総合の時間を使って「社会とのかかわりをふまえて自分を語る」をテーマにスピーチを考えました。3学期はクラス内予選を経てクラス代表1名を決め、本選に挑みました。代表者はみな自分の志を大切に、社会でどう活躍していきたいかを熱く語ってくれました。

■2月28日英会話カフェ開催

今回はさらにグレードアップして、お話のきっかけにカードゲームなどを行いました。ゲームの内容の説明や、ゲーム特有の言い回しなどを学びつつ、楽しいひと時を過ごしました。英語を「使う」事を学んだ生徒も多かったようです。

■3月1日環境フォーラム in English 開催

英語の授業内でプレゼンテーションとして「山脇ボランティアツアー企画」や「環境ニュース速報」(動画作成)を行いました。授業クラスで代表を決め、講堂にて本選を行いました。どのチームも力作ぞろいで、様々な地域で特有のボランティアに参加しようと考えたり、環境問題に思いを馳せたりした生徒が多かったようです。校長先生から授与された副賞の山脇オリジナル時計はなかなかの人気でした。

■3月12日 CALCULATION CONTEST 開催

今年度最後の計算コンテスト(通称かるこん)を開催しました。朝学習で鍛えた計算力を生かした結果がどう発揮されるのか楽しみです。結果は21日に発表、表彰しました。

■3月12日ビブリオバトル本選開催

冬休みの課題のブックレポートを元に国語の授業でビブリオバトルの予選を行い、クラス代表1名による本選を講堂にて行いました。クラス代表者の素晴らしいスピーチと質疑応答を受け、紹介されたすべての本を読みたくなった人も少

なくないと思います。本選の結果は21日に発表、表彰しました。

■3月12日学年集会開催

この学年が始まる時に「自考自律」という目標を掲げ、学びの型や学ぶ姿勢などについて話しました。今回はその振り返りの意味も込めて、もう一度考える時間を作りました。今の自分のままでいいのか、どう変わっていきたいのか考え、今後は自分次第で決まっていくことを確認しました。

■1年生終了にあたって

「やってみて、振り返って、改善点を洗い出し、次の行動に移す」自己調整型の行動をしよう、という話を学年当初からしています。年間5回の考査ですが、必ず2週間前に私学テストを行い、すぐに採点し、生徒個人で弱点やまだ完璧にできていない分野を洗い出し、次の考査に向けて行動をはじめ、そんなサイクルを回すための訓練をしてきました。また、平日2時間、休日4時間の勉強時間を確保し、学習の質を向上させつつも量を減らさないようにする指導もしてきました。この1年で学習する基礎を固めた生徒は多くいます。来年も引き続き自己調整型の行動に磨きをかけつつ、自考自律が実現できるように様々な取り組みを行っていく予定です。

中2

■企業フォーラム

3月1日(金)の総合において、1年間取り組んできた「社会知」のまとめとして「企業フォーラム」を実施しました。中2保護者9名の方に御来校いただき、仕事の内容だけでなくどのようにその仕事を捉え社会に貢献されているのか等をお話しいただきました。事前に関心のあるジャンルの希望を取りそれぞれ3名の方からお話を聞く形式で行いました。どの生徒も真剣なまなざしで熱心に聞いており、社会貢献に対する理解を自分ごととして深められたようです。

■次年度チャレンジクラスでの取り組み

3学期の総合は中3のチャレンジ別の活動となりました。

《マイチャレンジクラス》は5月の修学旅行の事前学習を行い、3日目の自主研修コースを考えました。訪れる予定の寺社について調べ、ガイドブック風の記事にまとめた上で、各自で考案したコースを班で共有・議論して、最善の案を仕上げました。

《科学チャレンジクラス》は探究活動を始めにあたり、高橋是清公園に行き気なることを写真に収め、仮説を立てる練習をしました。初めて顔を合わせた同級生とグループディスカッションを行い、持ち寄った「なぜ」に対して仮説を立て、結論を出し発表を行いました。この活動は屋久島での探究活動につながるはずで

す。

《英語チャレンジクラス》はSDGsの「1. 貧困をなくそう」を題材とし、グループ学習を行いました。調べていくうちに自分たちが知っている貧困と実際に世界で起きている貧困の差に気づくことができました。最後の授業では全グループが英語でプレゼンテーションを行いました。この活動を通して英語をツールとして考えたり発信する力が養われたようです。

■3月6日ビブリオバトル決勝大会開催

今年度のビブリオバトルは、図書委員が定期的に集まり運営・進行の準備をしてきたこと、審査を生徒だけでなくご招待した先生方がすることで、昨年度よりもさらにパワーアップした大会になりました。

また、紹介するために選んだ本のジャンルも、昨年度は小説がほとんどでしたが、今年度は新書や自己啓発本も登場し、生徒の成長を感じることができました。

生徒の振り返りからは、「発表者が紹介した本を読みたくなった」という声がたくさん挙がっています。この活動をきっかけとして、今後さらに読書活動が広がることを期待しています

■各教科から

《国語》 今年度のはじめにこちらでお伝えした「古典学習の導入を、苦手意識を持たせることなく丁寧に伝える」ことを意識して指導して参りました。古文を読むときには当時の人の気持ちに思いを馳せること、現代との比較などをすることで、古典の世界を味わいながら授業を展開してきました。学力推移調査でも毎回大問4の古文分野の得点率が高く、すべての問題で全国平均を大きく上回っています。来年度はいよいよ「現代文」「古典」に分かれて授業が展開されます。今年度習得した知識を生かして、さらに古典の世界を楽しんでほしいと思います。

《数学》 この2年継続して「解き方を暗記」から「内容を理解した上で、自力で解法をゼロから組み立てる」への切り替えを目指して参りました。特に本校生徒が苦手とする関数・図形といった思考力を要する分野に重点的に取り組んできた結果、多くの生徒が初見の難問にも臆せず挑める素地ができあがったと評価しています。

第3回学力推移調査でも、全分野において全国平均を大きく超えました。得点率に差がついたのは、大問2(比較的複雑な計算・基本問題)と大問3(1次関数)で、ここでしっかり得点することで全体の成績に結び付いている生徒が多く見られます。基礎が大切なのは言うまでもありませんが、同じ基礎でも「ただ問題が解けるだけ」か「理由をしっかりと理解した上で解いている」かで今後の学びの深さに大きく違いが出ます。中3でもぜひその姿勢を大切にしてください。

《英語》 英語は各グレードによって目標を定めて参りました。

G1 英語の基礎学力をしっかりと固め、高校へと向かう知識を着実に蓄える。

G2 基礎学力に思考力を加え、応用が容易に解ける学力をつける。

G3 自分の知識の穴埋めを自ら行い、英語理解を一層深める。

G4 問題量を多くこなし、文法や語法のバリエーションをどんどん増やす。

G5 入試や英検 1 級を意識した授業でハイレベルの演習を重ね、実力を上げる。

学力推移調査でも英語は大変素晴らしい結果を出しつづけ、各グレードで上位者が多く、初見の問題も果敢に取り組んでいます。今後も、なぜ学習をするのか、どうやって学習をしたら効率的なのかを考え自らを高めて、たくさん成功体験を積み重ねていって欲しいと思います。

中 3

■学習進路部によるガイダンス

学習進路部より「山脇学園高校に進学するにあたって」について、ガイダンスを実施しました。

生徒たちは大きな刺激を受けたようです。大変有意義な時間を過ごすことができました。

ガイダンスを受けての生徒からの感想は、以下の通りです。

・「将来何がしたいのか、なんとなくでも決まっていればよかったのですが、まだ悩んでいる途中なので、まずは目の前のことから何事にも全力で取り組んでいくべきだなと感じました。将来やりたいことが決まってきた頃に沢山の選択肢を残しておくことができるように、いま何ができたかが大切だとおっしゃっていたので、いまは最短で学年末考査に向けて頑張りたいと思います。」

・「今、この時点から高校三年生の時自分がどの位置にいることができるのかがある程度決まっていることを知り、正直結構焦りました。今、私の心の中に高校生から頑張ればいいやという気持ちがあったのですがそれだとダメだということがはっきりと分かりました。これからはまだまだ受験は先の話だから大丈夫だと考えずもう競争は始まっているという気持ちで勉強をこれまで以上に頑張っていきたいです。」

■グローバル教育部による講演会

「グローバル人材になるために」というテー

マで、グローバル教育部による講演を実施しました。

時折ユーモアを織り交ぜながら織りなされる講演を聞いて、生徒たちの進路選択の幅が広がったようでした。

講演に臨んだ生徒の感想は、以下の通りです。

・「今の日本の企業で働き続けるのと、海外に行って働くのとでは収入に大きな差が生まれるということを知りました。職を失って、生涯稼げるお金も少なくなりたくないで日本では働けない人ではなく外国に行っても通用する人材になるために、努力をするべきだと思いました。高い思考力を持った人材になったり、外国人にまさる日本人の周りとの協調しあう力を磨きたいと思います。」

・「日本だけでなく、海外の情報も日頃から目に触れるようにするべきだと感じた。日本国内だけの選択肢ではなく、世界的な規模でより多くの情報を見た上で自分の本当にやりたいことを見つけることが大切だと思った。また、知識的な勉強(rots)だけでなく、近年注目され、増加している因果関係などを考える知識の応用問題(hots)はすぐに身につくわけではないため、今のうちからトレーニングしようと思った。」

■YSE での報告

YSE（山脇・サイエンス・エキスポ）にて、発表を行ないました。従来は、科チャレの年度末報告会の様相を呈していた行事でしたが、今年度から、マイチャレンジクラスの皆さんも、自分ならではの視点をもって、社会に広がっている課題について一から仮説を立て、それを検証しました。

午前中は、多くの中学 1・2 年生が見学に来てくれました。発表者・司会者ともに緊張した面持ちでしたが、円滑に発表・運営ができていました。

1 年間（春休みから）の、YSE に向けた活動を通じて、自分で一から物事を考え、行動することができる人になってほしいと思います。

高1

■法政大学 佐伯順子先生 講演会・座談会

3月12日に法政大学人間環境学部准教授の佐伯英子先生をお招きし、講演会を実施しました。佐伯先生は社会学・ジェンダーをご専門としており、『学ぶ』と『働く』をジェンダーと持続可能性の視点から考える」というテーマで、生徒の考えを引き出しつつ持続可能な社会を作るために考えてほしいことをお話しくささいました。

講演後は、希望生徒3名と座談会を実施して下さり、ジェンダーや大学での学びについて1つ1つの質問に対して丁寧にお答えいただくことができました。



■模試への取り組み(継続)

・模試振り返り

1月実施のベネッセ学力テストを振り返りシートを使って、2月24日(土)の模試返却の際に振り返りをしました。生徒が各教科の問題の難易度別に自分の得点を集計し、自分たちがどのレベルの問題を中心に復習・対策すれば良いかを確認しました。

高1の3学期は学年としても「高2の0学期」として位置付けてきました。高2の模試ではより問題のレベルが上がり、高2後半では理科・社会も入ってきます。今回の模試振り返りを通して、高1内容の定着度を計るとともに、来年模試へのモチベーションアップにもつなげました。

■mini zap と math zap (継続)

英語科より、自習プリントとして mini zap を朝礼時に配布しています。3学期は文法に加えて長文問題を多めに出しました。提出率も高く、模試対策に向けても効果をあげています。

また、数学科より、同じく自習プリント math zap を配布しています。現段階でできるようになってほしい数学IAの問題をピックアップし、朝礼時や冬休み中もクラスルームで定期配信しました。

高2

《進路ガイダンス・セミナー》

■「本気で総合型選抜!相談会」

2月10日、本気で総合・推薦型選抜を目指す生徒のための個別相談会を行いました。

学習進路部から大学選び・準備のポイントについての話をした後、総合・推薦型選抜で医学部に現役進学した卒業生に講演をしてもらいました。セミナー後は学習部の教員が個別相談に応じ1人1人へのアドバイスをを行いました。

[🔗 学習進路部による資料](#)

[🔗 卒業生による講演の動画](#)

※動画の視聴パスワードは「YGakasaki」です

■「進路ガイダンス第2弾一般受験編」

2月14日、1月17日に実施した第1弾～総合・推薦型選抜編学習に引き続いて、学習進路部による「進路ガイダンス第2弾～一般受験編」2月14日に実施しました。

最も受験機会が多く・合格者の多くを占める一般受験は、正しく準備を行えば最も成果が出やすい入試であり、最も合格可能性が高いといえるものです。

具体的なデータに基づいて、様々な入試方式や入試方式の利用の注意点を挙げ、志望校選びのポイントについても触れられました。

《模試》

■2月6日「ベネッセ共通テスト模試」

高3時の選択科目も決まり、理科・社会も含め

た具体的な受験科目が決まってきたところで挑戦した模試でした。

来年度入試からはカリキュラムが変更となり受験科目の名称が変わり、科目の組み合わせも変わります。問題の形式も大きく変わり、各科目で文章量が増加しています。過去問が存在しない中で、この模試は問題形式に慣れ・経験値を積むために重要な意味を持ちます。

受験した生徒たちからは、「どの科目も文章が多くて、解き進めるのに時間がかかる」という声が多く聞かれ、これまでとは異なる新傾向の問題に慣れていく必要があると実感しました。

《OG 講演会等》

■「理系 OG 講演会・講演座談会」

2月17日(土)4名のOGに来校いただき、生徒のアンケートを元に大学入試に向けて、以下の項目についてお話を伺いました。

- ・各教科の学習法：「数学」「英語」「化学」「物理」「生物」「国語」「地理」「倫政」
- ・苦手科目への向き合い方や克服の仕方
- ・高3の学習計画の立て方や進め方、学校と塾とのバランスの取り方
- ・受験を乗り切った「リフレッシュ法・モチベーションやメンタルの維持」について

その後それぞれのOGを囲って座談会を実施し、より踏み込んだ質問などを行いました。山脇学園のカリキュラムを過ごしてきたOG達がどのように入試を乗り越えてきたのかという、実践的で説得力のある話を聴くことができました。



■「春休みの過ごし方—高3スタートアップ—」 (文系生徒向け)

3月12日(火)、本校を卒業したばかりの高校3年生2名をゲストに迎え、「1年前の春休みをどのように過ごしていたか」をテーマに話をいただきました。「自分と同じ失敗・後悔をしてほしくない」「自分が合格しなくて誰が合格するのか・自分はこんなものじゃない…という気持ちをもって受験勉強に向かってほしい」と、高2の春休み以降、高3に進級してから学力を大幅に向上させていったときに、どんなことを考え・どんなことをしていたのかを、語ってくれました。

【生徒の感想から】

○私は、志望校は一応決まっているけれど、まだ本当に行きたいのかわからない状況なので、大学について春休みのうちにたくさん調べておくことが大切だとわかりました。先輩のお話を聞いて、やり切れない量を計画して自分を追い込むという方法は今までの私にはなかった考えなので驚きました。私も追い込まれないとやらないタイプなので、実践してみようと思いました。結果がすぐに出ないとやる気をなくしてしまいそうになるけれど、先輩が言っていた「結果が出るまでは長い」という言葉を忘れず、努力し続けたいです。

○今の私は先輩がおっしゃっていたような夜型で、平気で2~3時まで起きていますが、お話を聞いて、春休み中に早寝早起きを習慣づける大切さを知り、明日から挑戦してみようと思います。また、今の時点で第1志望とは微妙に差があり、不安になっていましたが、「今、諦めない」という言葉を聞いて、より第1志望に合格したいという熱意が湧きました。

■「春休みの学習について」(理系生徒向け)

同じ3月12日(火)、理系クラスでは、高2の春休みの過ごし方について、各教科の担当者から話をしました。また、時間の使い方や計画の立て方などといった受験生として必要な心構えについて説明し、それもとにそれぞれの行動目標の設定を行いました。

この会の中で自己分析を行い、各教科の達成目標を設定し、自分の弱みや不得意な点を改善するためにどのように行動するのかを考えました。

■入試スケジュール立案課題（春休みの課題）

来年度（2025年）の大学入学共通テストの日程は、今年度よりも1週間遅くなります。当然のことながら試験日は今年度とは異なってくるのが予想されます。受験計画を立ててみると、試験日が重複してしまい、思っていた大学や試験方式を受験できないということはよくあることであり、その状況は来年度も変わることはありません。だからこそ、この時期に入試日程も含めた大学研究を行い、多くの志望先を挙げておくことが大切になります。

春休みのうちに大学説明会やオープンキャンパスに足を運び、多くの選択肢を持てるようにしましょう。

■「英語科 春のロイター板(スプリングだけに…) イベント」の実施

【記述模試体験会】3月14日（木）・18日（月）
8:30～11:30、22日（金）12:30～15:30

今年度はベネッセの模試が中心でしたが、来年度の模試は河合塾の模試が中心となります。河合塾の模試とベネッセの模試では出題の傾向も異なり、問題の難易度も高い傾向にありますので、前もってどんな模試なのかを体感することが目的です。

河合全統記述模試の過去問題を解き、その場で採点・解説を行います。3日間で延べ60名ほどが参加します。

【学習法レクチャー会】3月22日（金）8:30～11:30

英語が苦手な生徒に対しては、学習法のレクチャー会を行います。

これまでの模試や定期考査の成績状況を見ながら2グループに分け、それぞれに合った学習法をレクチャーします。高3に向けて、良い学習のスタートを切ることができるようにしていきます。約50名が参加します。

大学説明会

室蘭工業大学説明会を実施しました

2月24日（土）、国立大学法人・室蘭工業大学の樋口健教授を講師にお迎えして「理系国立大学の魅力を知ろう～室蘭工業大学説明会」を実施しました。

室蘭工業大学は北海道室蘭市にある国立の工学系大学ですが、樋口先生によれば、首都圏の学校でお話をすると「なぜわざわざ室蘭へ？」と聞かれることが多いそうです。

実は、室蘭工業大学は情報学や航空宇宙学では日本トップレベルの研究を行っている大学で大学院修了者の半数が東証プライム上場企業に就職していることから分かるように企業からの評価もきわめて高い大学です。昨年12月には東京工業大学・九州工業大学と産学・人材育成連携覚書を締結したことで注目を集めました。

そんな室蘭工業大学の知られざる魅力を知っていただく機会を設けたいと考えていたところ、昨春、卒業生が進学したことがご縁で今回の説明会開催に繋がりました。

当日は、当初の予想を大幅に上回る100名近い生徒・保護者の方が参加。山脇生の理系国立大学への注目度の高さが伺える結果となりました。

説明会の動画や資料は下記リンク先をご参照下さい。

[☞ 室蘭工業大学説明会資料](#)

[☞ 室蘭工業大学説明会動画](#)

※動画の視聴パスワードは「YGAkasaka」です

高大連携プログラム

学習院女子大高大連携平和教育プログラム（高校編）を実施

1月10日（水）と2月28日（水）に、学習院女子大学との高大連携平和教育プログラム（高校編）を実施しました。2学期に実施した中学編では「戦争はなぜなくなるのか」・「平和とは

何か」をテーマに、講義を行っていただきました。今回の高校編では、国際コミュニケーション学科の伊藤由紀子教授にご登場いただき、東アフリカに位置するルワンダの過去と現在から平和を考えるプログラムを行いました。

伊藤先生は現在、研究のためにルワンダに滞在中で、現地とZoomミーティングで繋いでリアルなルワンダの姿をお伝えいただきました。

1月10日の第1回目は、ルワンダの歴史についての講義を行いました。平和について考える前提としての、民族構成やルワンダ内戦、現在のルワンダについての知識を概観しました。

生徒たちからは「初めて知ることが多く、衝撃を受けた」・「日本よりも女性進出が進んでいることに驚いた」・「日本と同じくらい治安が良いとのことなので、行ってみたいと思った」などといった感想が出され、アフリカにある国のイメージが変わった生徒が多くいたようでした。

2月28日の第2回目は、1回目の講義の際の伊藤先生への質問にあった「伊藤先生は、どうしてルワンダに行こうと思ったのか」「ルワンダに住んでみて、日本との違いはどんな点か」などの質問に丁寧に回答をいただきました。

その後、現地の女子大学生にも参加していただき、ルワンダでの学びや、卒業後の目標について語っていただきました。

質疑応答の時間には、高1・高2の希望生徒と英語で活発なやり取りが行われました。

Zoomによる通信や時間の制約上、全ての生徒と話してもらうことはできませんでしたが、国境を越えたコミュニケーションは大きな刺激となったようです。



【生徒の感想から】

○女子大生がBOSSになりたいと言っていたことが一番印象的でした。その理由も自分が上司になって雇う人の生活をサポートできるという内容でとても感心しました。

○ルワンダでは大学に通えるのは10人に1人と聞いて驚きました。また、大学に行けないという理由が学力ではなく、費用がないということにも驚きました。

○自分の将来について幼い頃から考えていて、かつその夢を目指して今何をすべきなのか考えていることを聞き、すごいと感じた。

○「自分が国の未来を変えていく」という意識を持って動くことが必要だと知り、勇気を出して一歩踏み出すことが社会をも変えるのだと感じた。

★『Hotel Rwanda』上映会を実施

第1回目の講義後の1月27日(土)の午後、Hotel Rwandaの上映会を行いました。ルワンダ内戦を克明に描いた、世界的にも注目された映画です。100日間で約100万人の人々が亡くなっていった大虐殺について、第1回目の講義で触れた内容をより具体的にとらえる機会となりました。

大学説明会

関西私立三大学合同説明会を実施しました

3月12日(火)、関西を代表する私立大学である同志社大学・関西大学・関西学院大学の入学センターの担当者を招いて合同説明会を実施しました。

京都・大阪・兵庫を代表する名門私立大が一堂に集まって大学の魅力を伝えてくれる貴重な機会ということで、40名を超える生徒・保護者の方が参加しました。

歴史と文化の街・京都で150年以上の歴史を刻む同志社大学。関西エリアの「志願したい大学」

16年連続1位、多様な学びが魅力の関西大学。
「日本一美しい」キャンパスを持ち国際性豊かな関西学院大学。

お話して下さった各校の担当者の方も、スクールカラー同様個性豊かで、そのお話ぶりからも、それぞれの大学の魅力が伝わったのではないかと思います。

これからの時代は、学歴よりも学習歴が問われると言われていています。生徒のみなさんにはぜひ色々な大学の魅力を知って、自分の理想の大学生活を描くことができる大学を見つけてもらいたいと思います。

SSI (Self Study Island) 便り

■自習室利用促進キャンペーン実施報告

2学期に引き続き学年末考査前も利用促進キャンペーンを2/6~20に開催し、上記期間の利用時間が15時間を超えた16人の生徒が2枚、10時間を超えた21人の生徒が1枚の座席優先予約チケットを獲得しました。

SSIは下級生にとって「上級生が学ぶ姿」を垣間見ることのできる貴重な機会となっており、ここにも「学びの相乗効果」が生まれていると言えます。高3が入試本番を乗り越えていく姿から下級生が多くのことを学んでくれたと期待します。

■atama+体験会を実施しました

3月12日(火)にSSIでatama+体験会を実施し80名以上の方にご参加いただきました。体験会で出たご質問に対するQ&Aについては、下記リンク先をご参照ください。

今年度まで、中学のみ英語・数学の2科目での実施してきた放課後atama+講座ですが、4月からは対象学年を高校1年生までに拡大します。

高校1年生は英語・数学に加え、化学・物理も受講可能になりました。

国公立大学や医学部、早稲田・慶應義塾・上智といった理系の難関大学では、「理科2科目」を受験科目として課するのが一般的です。志望系

統別では、薬学系は「化学」、工学系は「物理」が理科の指定科目となっている場合が多いです。理系のこうした大学・系統を目指している生徒は、放課後atama+講座の「化学」「物理」の活用もぜひご検討ください。

※2024年度前期のatama+講座のお申し込みおよび休会の締め切りは3月26日(火)。SSIの職員が在室しているのは3/12・21・23・25・26です。

[atama+に関するQ&A](#)

学力テスト・模擬試験

4月実施の学力テストのスケジュールです。いずれも学校で受験します。

学年	業者	学力テスト・模擬試験	実施日
中2	ベネッセ	第1回学力推移調査	4月10日
中3	ベネッセ	第1回学力推移調査	
高1	ベネッセ	第1回スタディーサポート	
高2	ベネッセ	第1回スタディーサポート	
高3	ベネッセ	第1回スタディーサポート	

※学力推移調査は約1カ月後、スタディーサポートは約2週間後に成績が返却されます。

学習進路関係イベント

4月の学習進路関連イベントのスケジュールです。申込等の案内は随時配信します。

学年	対象	イベント	実施日
高校1・2・3年 生徒・保護者[希望者]		医学部進学セミナー* (メィカルボ・可児良友先生)	4月13日
高校1・2・3年 生徒・保護者[希望者]		看護・薬学系進学セミナー* (ena看護・吉田剛史先生)	4月20日
生徒・保護者[希望者]		芝浦工業大学説明会(予定)	4月28日

*ご案内プリント、お申込みはこちらから

[高校生 医学部進学セミナー\(4/13\)ご案内](#)

[高校生 看護薬学進学セミナー\(4/20\)ご案内](#)

『学習進路通信』のバックナンバーはこちらから
[在校生・保護者の皆様へ > 進路情報](#)